

当科に入院した患者様およびご家族の方へ

少子化が進む中での当科におけるハイリスク児の入院統計の変化に関する研究のお願い

群馬県の出生数は急速に減少し、2015年の14,256人から2024年には9,344人まで減少しています。同期間中に出生体重2,500g未満の低出生体重児も1,415人から968人まで減少し、出生体重1,500g未満の極低出生体重児の出生数も122人から74人となっています。地方では少子化に伴い新生児医療施設への入院数が減少し、新生児医療について医療レベルを維持することができなくなることや若手医師の研修が十分に行えなくなることなどが問題視されています。また、これまでも周産期医療施設の集約化が行われてきましたが、今後さらに集約化が進むことも予想されます。当院は群馬県で唯一の総合周産期母子医療センターかつ新生児専門医制度の認定基幹施設です。今回、我々は地域における三次新生児医療施設および新生児医療の研修施設としての任を担っている当科における入院症例数の変化およびそれに関連する因子を明らかにし、地方の新生児医療の中核施設の今後のあり方について検討するために「少子化が進む中での当科におけるハイリスク児の入院統計の変化に関する研究」を後方視的に実施しております。後方視的研究とは、過去に入院されたお子さんの診療情報などのデータを用いて調査を行う研究です。

過去の診療情報を研究に用いることを、ご家族や代理人の方に改めてご説明し、ご同意を得ることは現実的には困難です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。したがって、ホームページ等で研究内容を公開することで、同意をいただくことに代えさせていただいております。

本研究では、お子さんの個人情報の匿名化を行っており、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は使いません。得られた情報は個人が特定されないようにデータベース化したうえで、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は、医療の発展のためにまとめ、学会等で発表いたします。お子さんが研究の対象に該当され、研究への情報提供に同意されないなどのご意志やご意見等がございましたら、ご遠慮なく下記研究代表者までお問い合わせください。

目的：本研究は、当院発行の年報に掲載された入院統計および当科に入院した赤ちゃんの病歴や赤ちゃんなどについて調べ、当科における入院症例数の変化ならびにそれに関連する因子を明らかにすることを目的としています。

研究期間：2026年6月～2028年3月まで

対象となる方：2015年4月～2025年3月に当科に入院したお子様

方法：当院年報に掲載されたデータおよびカルテ情報に基づいた後方視的調査です。特別に何かしていただくことはありません。

研究に用いる情報の種類：人工呼吸管理の有無、入院期間などの病歴等に関する情報

研究実施機関：群馬県立小児医療センター

研究責任者：丸山憲一

研究共同担当者：小泉亜矢、鏑木浩太、宮川陽一、小柳晴加、清水佑基、松野早紀

【問い合わせ先】

研究代表者氏名：新生児科 丸山憲一

〒377-8577 群馬県渋川市北橋町下箱田 779 番地

電話：0279-52-3551 FAX：0279-52-2045（代表）

E-mail: maruken@gcmc.pref.gunma.jp